

感染症センター

《概要》

当感染症センターは泉佐野市立感染症センターとして、輸入感染症の国内侵入を阻止するため関西国際空港対岸のりんくうタウンに建設された。りんくう総合医療センターとして総合的に運用されていたが、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」施行以来、市立泉佐野病院の管轄下に移行した。2011年4月より地方独立行政法人りんくう総合医療センターの一部門として運用を行っている。

2003年に鳥から人へ感染が認められた H5N1 亜型ウイルスによる高病原性鳥インフルエンザが、パンデミックインフルエンザ(新型インフルエンザ)に変異することを危惧し、体制の強化を図っていたところ、2009年4月、豚由来による新型インフルエンザ(H1N1)が発生した。感染拡大防止のため当センターが中心となり、国内・地域への感染拡大防止のため大きな役割を担った。新型インフルエンザ(H1N1)は世界中でパンデミックをひき起こしたが、病原性が高くはないことが判明し、2010年4月1日「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」第44条の2第3項の規定に基づき、通常の季節性インフルエンザとして取扱い、その対策も通常のインフルエンザ対策に移行し、その名称については、「インフルエンザ(H1N1エイチイチエヌイチ)2009ニセンキュウ」となった。しかし、高病原性鳥インフルエンザのヒトへの感染は依然報告されており、1・2類感染症や未知感染症の発生、侵入にも備え、受け入れ態勢の強化を引き続き行う必要がある。1.2類感染症患者入院時の治療の方針については奈良県立医科大学感染症センター教授が顧問を務めるなど、同センターと連携しているが、重症感染症患者の全身管理については2013年当院と合併予定の府立泉州救命救急センターとの連携をさらに強化していく予定である。

その他、全国3か所、西日本唯一の特定感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、見学者の受け入れや、関西空港検疫所等関連機関との会議や訓練等も実施している。

《実績》

1. 感染症センター見学者

日時	所属	人数	見学・内容等
6月	中国	8名	感染症センター内見学
	韓国		感染症センター内見学
7月22日(金) 13:00~15:30	大阪大学医学部	10名	講義60分 感染症センター見学
7月26日(火)	関西空港検疫官	6名	感染症センター内見学
8月18日(木)	自治医科大学学生	7名	感染症センター内見学
11月16日(水)	大阪府感染症課	2名	感染症センター内見学
平成24年2月2日(木) 9:30~14:30	奈良県立医科大学	11名	午前：講義60分 センター内見学・防護服の着脱 午後：講義90分 ヘリポート見学

2. 感染症センター 会議及び合同訓練

- 1) 平成 23 年 4 月 23 日 関西空港健康危機管理連絡会議
場所：関西空港検疫所会議所、C I Q 合同庁舎 4 階 会議室
- 2) 平成 23 年 12 月 27 日 泉佐野保健所 大阪府地域保健感染症課 搬送訓練
場所：りんくう総合医療センター
- 3) 平成 24 年 2 月 28 日 関西空港検疫所 搬送訓練
場所：関西空港 りんくう総合医療センター 感染症センター

3. 感染症センター入院者（1994 年 10 月～2012 年 3 月まで）

疾患名	人数
細菌性赤痢	17 名
アメーバー赤痢	1 名
腸チフス	6 名
コレラ	4 名
SARS 疑似症例	1 名
新型インフルエンザ(A/H1N1) 疑似症例含む	2 名
	累計 31 名

4. インフルエンザサーベイランス

当院検体数および陽性数 推移

